

A工区地質記載シート

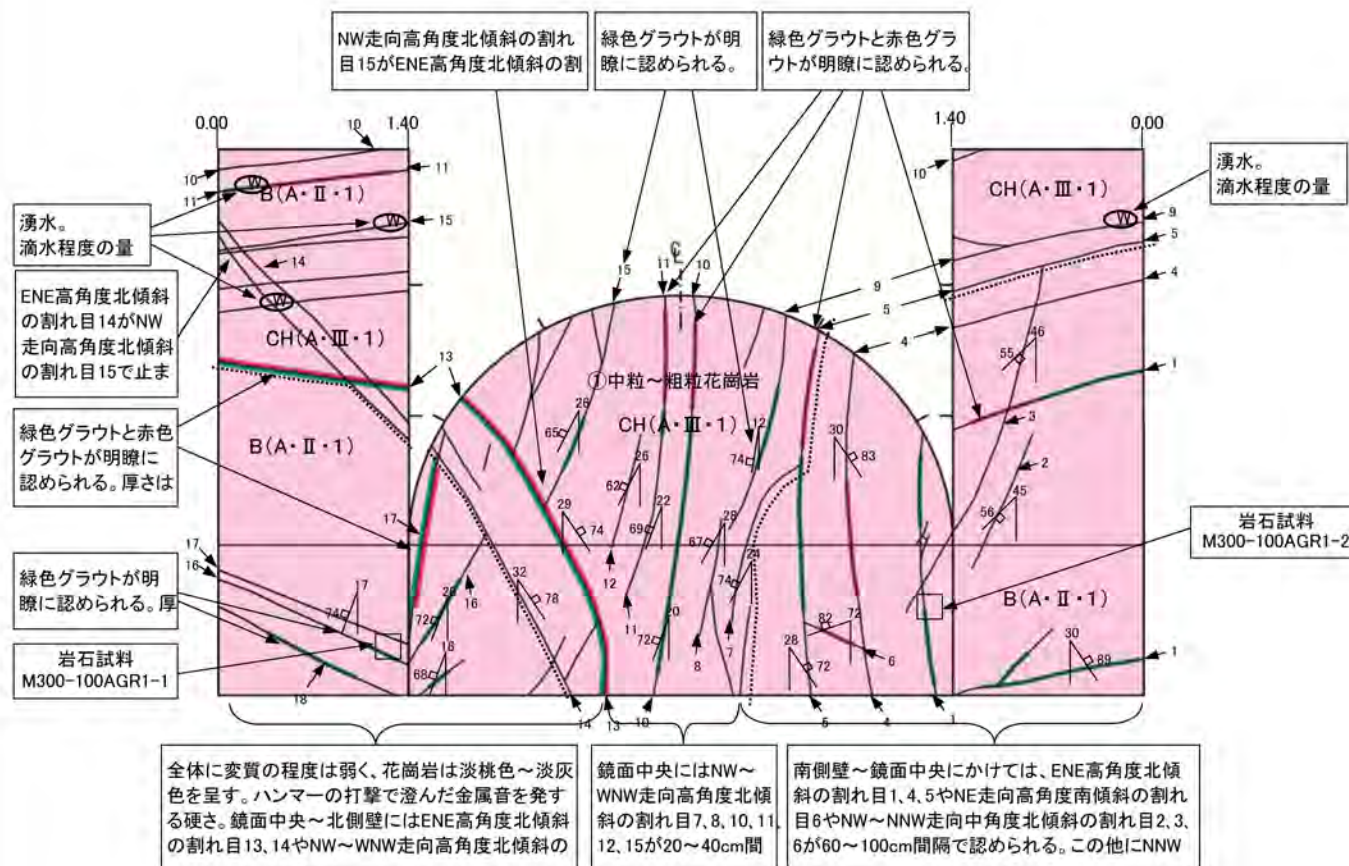
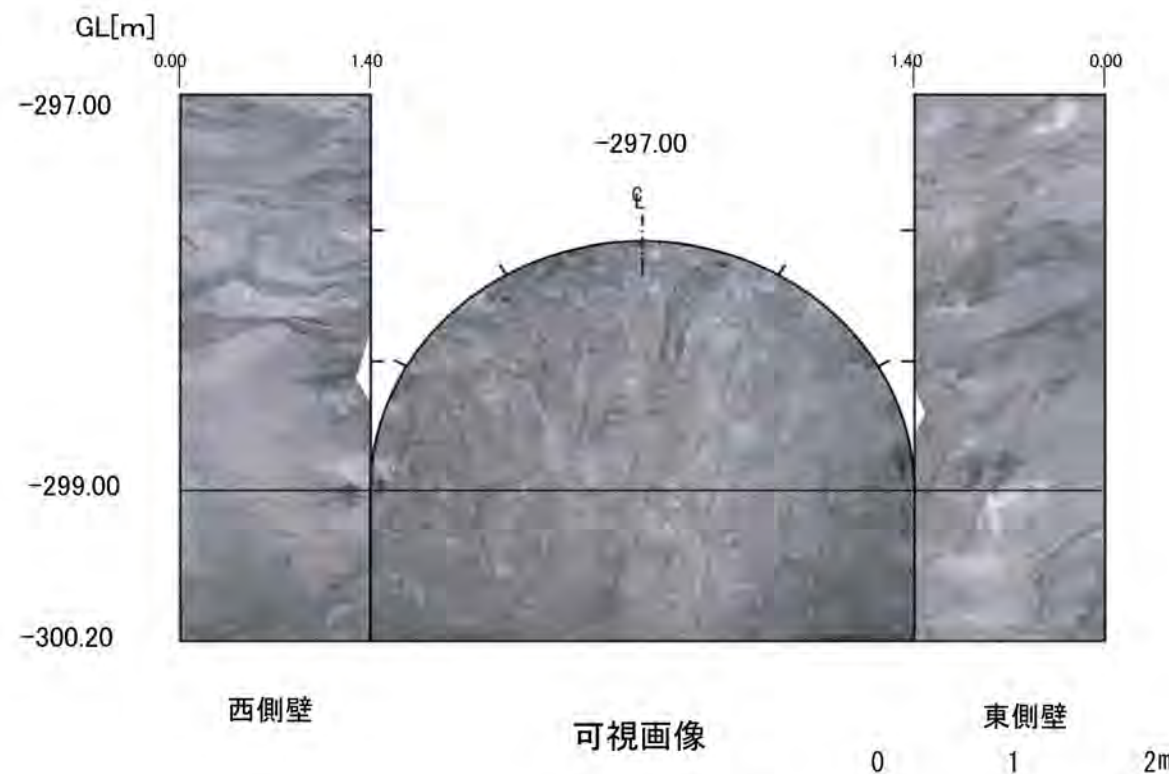
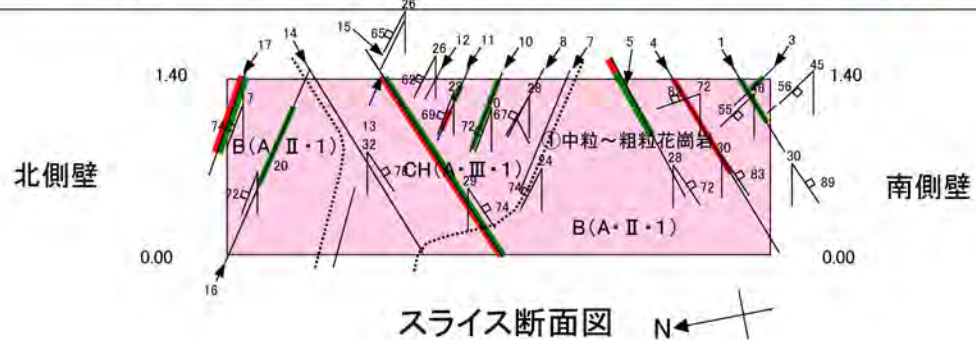
A3-請負-計測工(地質)-090227

シート番号	100m計測横坑-右1	日時	平成21年2月27日 12:00~13:00	位置・深度	100m計測横坑-右1 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 グラウト



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 71 G.L. -299m~300.2m 77
風化	α	岩石試料番号	M300-100AGR1-1 (花崗岩・グラウト)、 M300-100AGR1-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴量程度		

特記事項

当箇所は100m計測横坑であり、掘進方向はS79E方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、ENE高角度北傾斜、NW~WNW走向高角度北傾斜である。
南側壁～鏡面中央にかけては、ENE高角度北傾斜の割れ目1, 4, 5やNE走向高角度南傾斜の割れ目6, 8やNW~NNW走向中角度北傾斜の割れ目2, 3, 6が60~100cm間隔で認められる。この他にNNW走向高角度南傾斜の割れ目6が認められる。鏡面中央にはNW~WNW走向高角度北傾斜の割れ目7, 8, 10, 11, 12, 15が20~40cm間隔で認められる。鏡面中央左側から北側壁にはENE高角度南傾斜の割れ目13, 14やNW~WNW走向高角度北傾斜の割れ目16, 17, 18が60~100cm間隔で認められる。

湧水は、鏡面正面天井の割れ目9, 11, 14, 15付近から滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、鏡面中央～天端付近で、割れ目間隔が20~40cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・III・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。
グラウトは、鏡面中央～北側壁の割れ目9, 15, 16, 18で緑色グラウトが最大厚さ1mm程度で、南側壁～鏡面中央の割れ目4, 6で赤色グラウトが最大厚さ1mm程度で、南側壁～鏡面中央の割れ目1, 5や鏡面中央の割れ目10, 11及び鏡面中央～北側壁の割れ目13, 17で赤色と緑色のグラウトが最大1mm程度、いずれも明瞭に認められた。

A工区地質記載シート

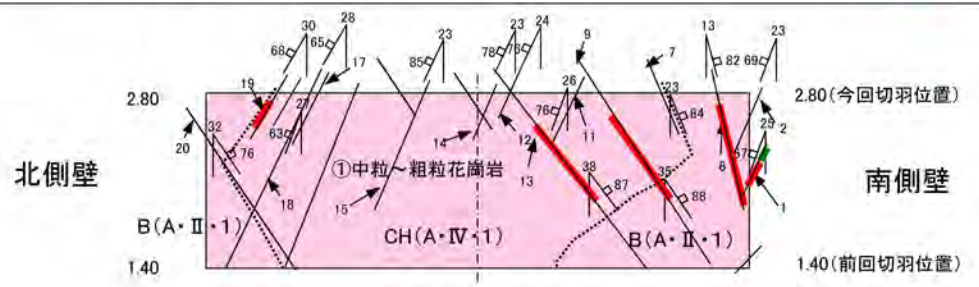
A3-請負-計測工(地質)-090228

シート番号	100m計測横坑-右2	日時	平成21年2月28日 5:30~6:30	位置・深度	100m計測横坑-右2 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

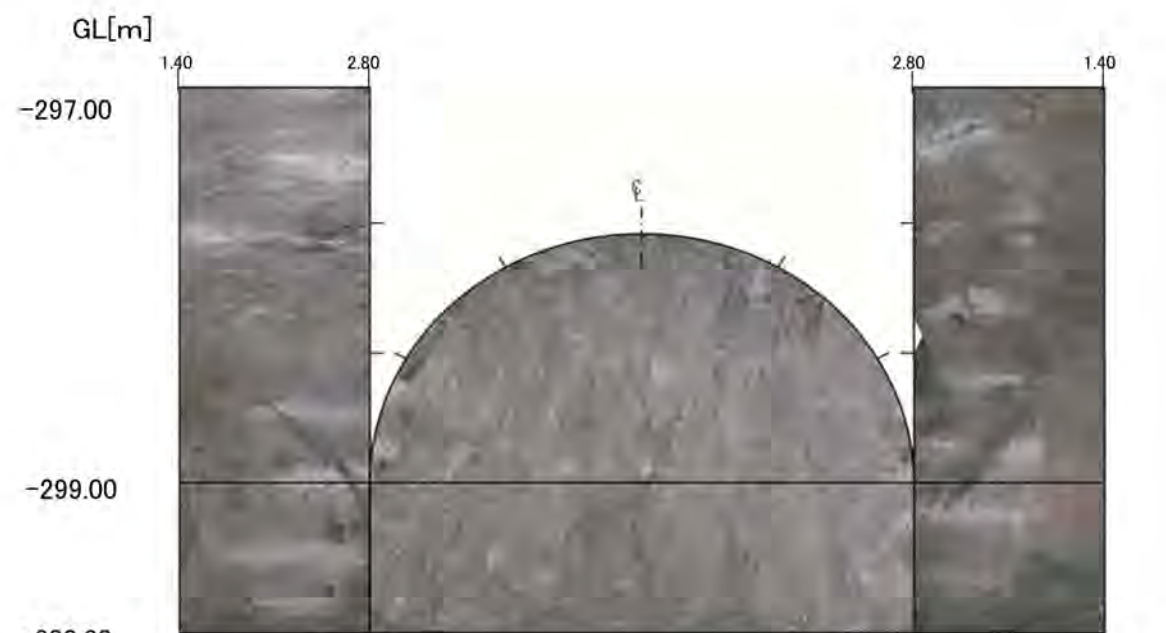
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 グラウト



スライス断面図

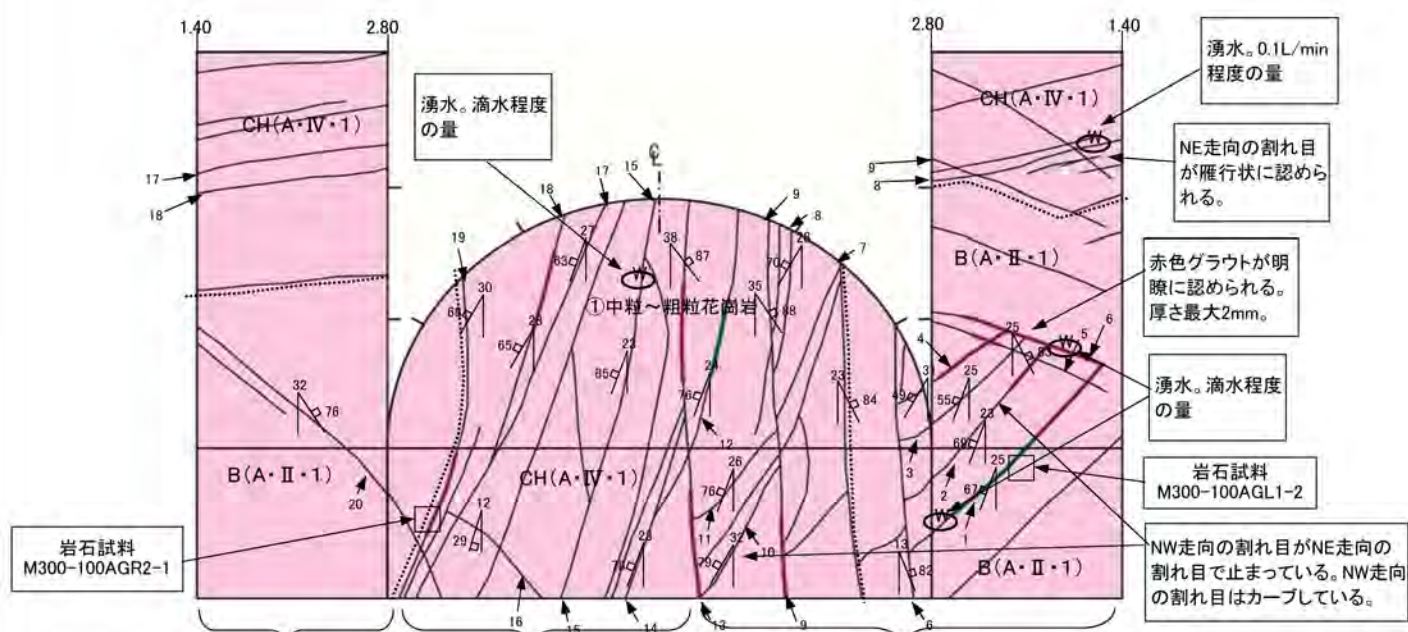


北側壁

可視画像

南側壁

0 1 2m



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。北側壁にはNE走向南傾斜の割れ目20が認められる。割れ目間隔は60cm以上。

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面左側～鏡面中央まで、NW走向高角度北傾斜の割れ目が10～15cm間隔で認められる。割れ目には赤色グラウトを挟んでいるのが明瞭

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面中央～南側壁までNE走向高角度南傾斜の割れ目が50～60cm間隔で認められ、NW走向高角度北傾斜の割れ目が10～60cm程度の間隔で認められる。割れ目には赤色と緑色のグラウトを挟んでいるのが明瞭に認められる。

スケッチ

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 66 G.L. -299m~300.2m 66
風化	α	岩石試料番号	M300-100AGR2-1 (花崗岩)、 M300-100AGR2-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	0.1L/min程度		

特記事項

当箇所は100m計測横坑であり、掘進方向はN101° E方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。

割れ目の主要な走向傾斜は、NE走向高角度南傾斜とNW走向高角度北傾斜である。

北側壁にはNE走向南傾斜の割れ目20が認められる。割れ目間隔は60cm以上。鏡面左側～鏡面中央まで、NW走向高角度北傾斜の割れ目が10~15cm間隔で認められる。鏡面中央～南側壁までNE走向高角度南傾斜の割れ目が50~60cm間隔で認められ、NW走向高角度北傾斜の割れ目が10~60cm程度の間隔で認められる。他に一部でNW走向南傾斜の割れ目が認められる。

湧水は、南側壁の割れ目8から0.1L/min程度の量、南側壁の割れ目1と割れ目6、鏡面中央の割れ目15から滴水程度が認められた。

岩級区分は、鏡面右側～左側まで及び天端付近では、割れ目間隔が10~15cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・IV・1)級と判断した。鏡面の一部と北側壁と南側壁では、割れ目間隔が60cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。

グラウトは、南側壁の割れ目1で赤色と緑色グラウトが厚さ最大2mm程度、割れ目2、4、5、6で赤色グラウトが最大2mm程度、割れ目12で緑色グラウトが最大2mm程度、鏡面中央の割れ目9、13、18、19で赤色のグラウトが厚さ最大2mm程度、いずれも明瞭に認められた。

A工区地質記載シート

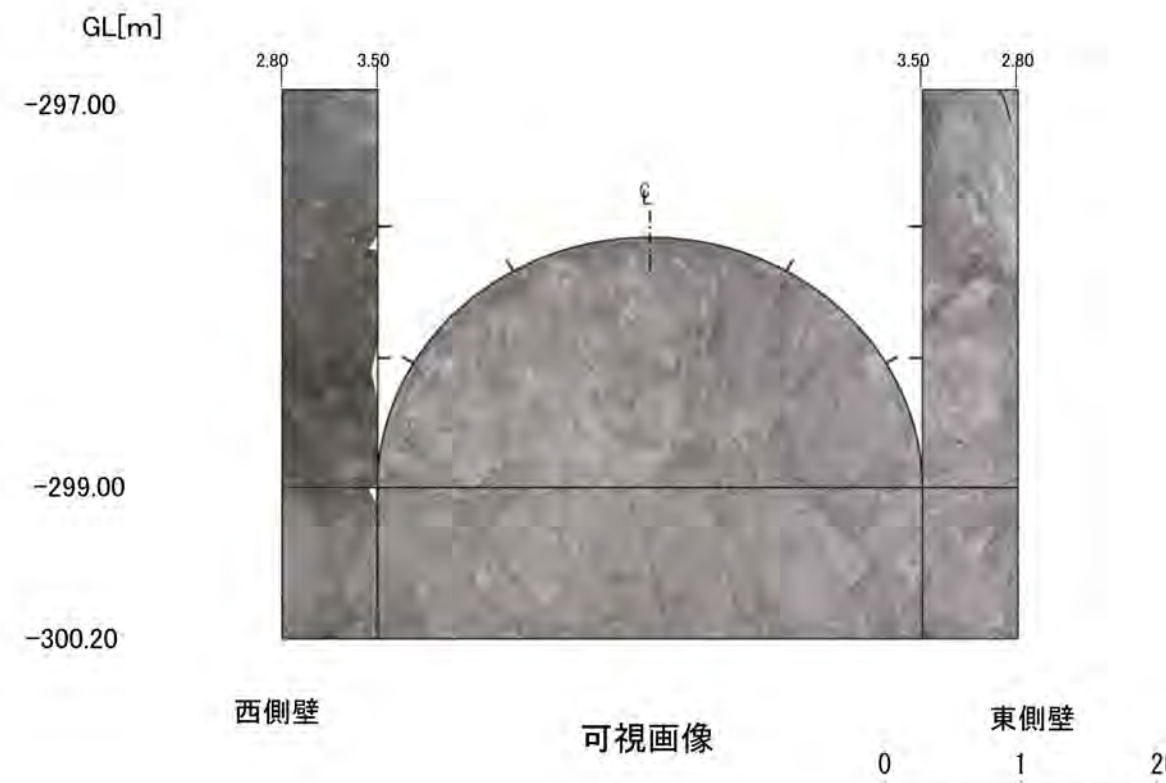
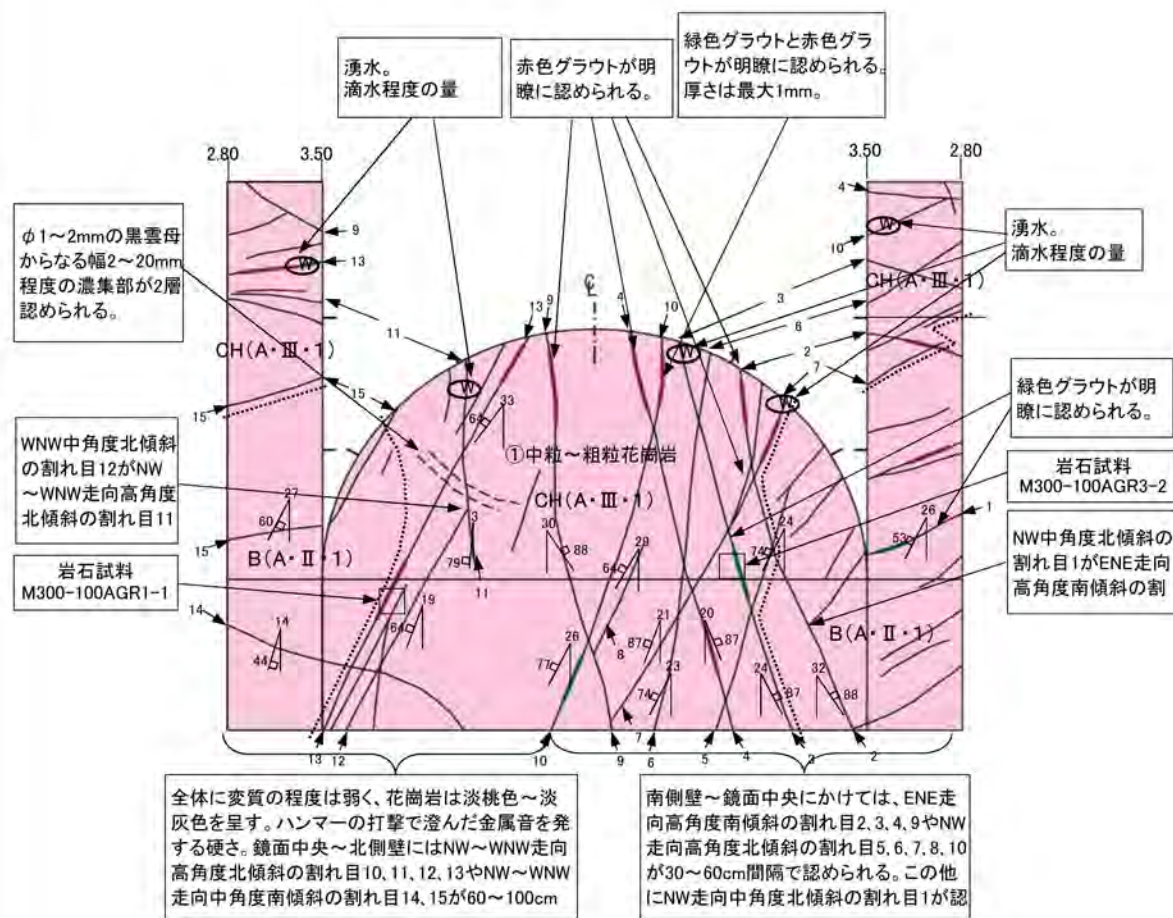
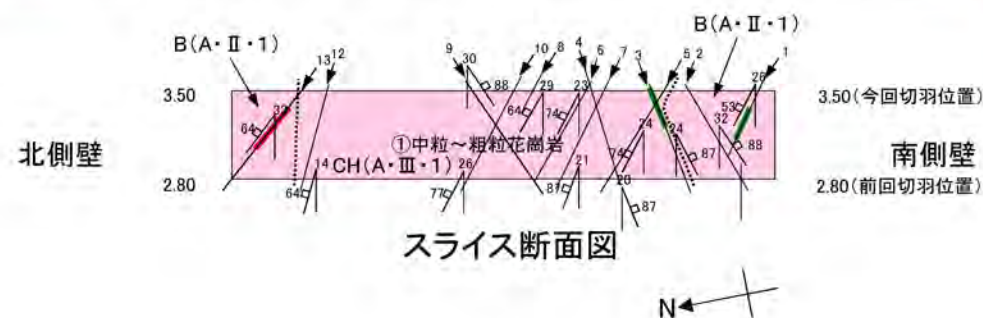
A3-請負-計測工(地質)-050227

シート番号	100m計測横坑-右3	日時	平成17年2月27日 15:30~16:30	位置・深度	100m計測横坑-右3 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	----------	------



スケッチ

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 66 G.L. -299m~300.2m 72
風化	α	岩石試料番号	M300-100AGR3-1 (花崗岩・グラウト)、 M300-100AGR3-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴量程度		

特記事項

当箇所は100m計測横坑であり、掘進方向はN101°E方向である。横坑観察は鏡面から0.7m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色~淡灰色を帯びた長石が散在している。
全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。
割れ目の主要な走向傾斜は、ENE走向高角度南傾斜、NW走向高角度北傾斜、NW~WNW走向高角度北傾斜。他にNW~WNW走向中角度南傾斜やNW走向中角度北傾斜である。
南側壁~鏡面中央にかけては、ENE走向高角度南傾斜の割れ目2, 3, 4, 9やNW走向高角度北傾斜の割れ目5, 6, 7, 8, 10が30~60cm間隔で認められる。この他にNW走向中角度北傾斜の割れ目1が認められる。鏡面中央左側~北側壁にはNW~WNW走向高角度北傾斜の割れ目10, 11, 12, 13やNW~WNW走向中角度南傾斜の割れ目14, 15が60~100cm間隔 (一部30~60cm間隔) で認められる。

湧水は、鏡面正面の天井付近の割れ目3, 7, 10, 11, 13付近から滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、鏡面の中央~天端では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)級と判断した。北側壁と南側壁では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。
グラウトは、南側壁~鏡面中央の割れ目1, 3で緑色グラウトが最大厚さ1~2mm程度で、南側壁~鏡面中央の割れ目2, 4, 7, 9で赤色グラウトが最大厚さ1mm程度で、南側壁~鏡面中央の割れ目10や鏡面中央~北側壁の割れ目13で赤色と緑色のグラウトが最大1mm程度、いずれも明瞭に認められた。